

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 43
2020・2・27

1 2018~2020 年森林被害：連邦農業省が現在の被害数値を公表
—被害森林所有者に 8 億ユーロ（約 960 億円）の支援—（2020・2・26）

連邦農業省（BMEL）クレックナー大臣は、被害を受けた森林所有者に GAK（EU-共同課題）を通じて、8 億ユーロの追加補助金の支払いを準備している。各州はこれの実施担当者である。連邦農業省は、森林被害の数値を公表した。これは 2018 年の初め以来、ドイツにおいて極端な干ばつ、森林火災とキクイムシ被害を通じて生じた被害である。

過去 2 年間並びに現行年に見込まれる被害データを基礎にして、連邦農業省は 1 億 6 000 万 m³の被害木と、再植林が必要な面積 245 000ha をとりまとめた。2019 年晩夏における過去年の調査に際して、各州が収集したデータとその分析は、1 億 5 00 万 m³の被害木と被害面積 180 000ha に達している。この被害の特に大きかったのは、ノルトライン＝ヴェストファーレン州、ザクセン＝アンハルト州、ヘッセン州そしてチューリンゲン州である。

連邦農業大臣クレックナーのイニシアチブで、来るべき 4 年間について EU 共同課題「農業構造の改善と海岸保全の改善（GAK）」を通じて、4 億 8 000 万ユーロ（約 576 億円）の追加財源を、森林のために準備している。各州の共同融資でもって 8 億ユーロ弱となる。この資金でもって被害木の運搬、再植林そして気象に適応した混交林転換の継続が支援される。

大臣は昨秋国内森林サミットで GAK の奨励分野における、気象変動に重要な適応を議論するために、関係団体、科学者そして実践の専門家を招いた。この関連予算は昨年 12 月に議決された。奨励指針の適切な実施は、今や各州のテーマである。この奨励政策の認可—監督官庁とともに、支援財源が該当する森林所有者のもとに、スムーズに届くことを配慮しなければならない。

連邦農業省は、さらに EU 一委員会にこの支援政策実施の通知を行っている。これは該当する森林所有者とともに、大規模な奨励財源の要求を実現させる上で必要な行動である。

背景：

森林被害の数値は、各州に照会した 2020 年初めの分析結果である。被害の進展の大きさに直面して 1 年以内に可能な限りこの報告に、適応しなければならない。この被害進展への大きな影響は、これからの天候である。連邦農業省は、ずっと以前から森林の持続的な継続発展に取り組んできた。これは長期的な、しかし、成果多いプロセスである。

表一 1 2018 年度 各州別森林被害面積 (ha)

確定・見込み			
州名	民有林	国有林	合計
連邦不動産管理省	—	4 800	4 800
ブランデンブルグ	4 630	2 170	6 800
ベルリン	—	25	25
バーデン＝ヴュルテムベルグ	13 400	4 600	18 000
バイエルン	15 300	831	16 131
ブレーメン	—	—	—
ヘッセン	13 100	13 000	26 100
ハンブルグ	—	50	50
メクレンブルグ＝フォアポーマーレン	200	475	675
ニーダーザクセン	15 770	10 512	26 282
ノルトライン＝ヴェストファーレン	58 000	10 000	68 000
ラインラント＝プファルツ	13 200	3 500	16 700
シュレーズヴィック＝ホルシュタイン	645	65	710
ザールラント	476	285	761
ザクセン	5 746	4 200	9 946
ザクセン＝アンハルト	13 176	7 112	20 288
チューリンゲン	15 250	14 500	29 750
ドイツ全体	168 893	76 125	245 018

表一 2 2018 年度各州別被害木量 (m³)

確 定			
州 名	針 葉 樹	広 葉 樹	年 合 計
連邦不動産管理省	326 772	24 426	351 198
ブランデンブルグ	1 104 000	96 000	1 200 000
ベルリン	—	—	—
バーデン＝ヴュルテムベルグ	4 000 000	600 000	4 600 000
バイエルン	6 200 000	300 000	6 500 000
ブレーメン	—	—	—
ヘッセン	5 000 000	450 000	5 450 000
ブレーメン	—	—	—
メクレンブルグ＝フォアポームェルン	271 000	109 000	380 000
ニーダーザクセン	4 202 298	872 504	5 074 802
ノルトライン＝ヴェストファーレン	3 100 000	250 000	3 350 000
ラインラント＝プファルツ	1 340 000	31 000	1 371 000
シュレースヴィック＝ホルシュタイン	93 047	40 192	133 239
ザールラント	98 849	25 124	123 973
ザクセン	3 167 897	120 682	3 288 579
ザクセン＝アンハルト	1 828 100	136 276	1 964 376
チューリンゲン	1 885 300	44 700	1 930 000
ドイツ全体	32 617 263	3 099 904	35 717 167

表一 3 2019 年度各州別被害木量 (m³)

確 定			
州 名	針 葉 樹	広 葉 樹	合 計
連邦不動産管理省	506 331	22 554	528 885
ブランデンブルグ	1 277 000	94 000	1 371 000
ベルリン	300	200	500
バーデン＝ビュテンベルグ	5 300 000	1 000 000	6 300 000
バイエルン	10 800 000	597 000	11 397 000
ブレーメン	—	—	—
ヘッセン	7 900 000	790 000	8 690 000
ハンブルグ	10 000	1 500	11 500
メクレンブルグ＝フォアポームェルン	400 000	150 000	550 000
ニーダーザクセン	4 420 968	293 579	4 714 547
ノルトライン＝ヴェストファーレン	15 500 000	600 000	16 100 000
ラインラント＝プファルツ	3 500 000	200 000	3 700 000

シュレースヴィック-ホルシュタイン	114 582	31 629	146 211
ザールラント	167 613	9 830	177 443
ザクセン	3 310 000	126 000	3 436 000
ザクセン-アンハルト	6 953 000	851 000	7 804 000
チューリンゲン	3 569 500	1 168 200	4 737 700
ドイツ全体	63 729 294	5 935 492	69 664 786

表-4 2020年度各州別被害木量 (m³)

見 込 み			
州 名	針 葉 樹	広 葉 樹	合 計
連邦不動産管理省	300 000	22 000	322 000
ブランデンブルグ	2 000 000	1 100 000	3 100 000
ベルリン	100	100	200
バーデン-ヴュルテムベルグ	4 200 000	700 000	4 900 000
バイエルン	8 100 000	500 000	8 600 000
ブレーメン	—	—	—
ヘッセン	5 200 000	520 000	5 720 000
ハンブルグ	10 000	1 500	11 500
メクレンブルグ-フォアポメルン	400 000	200 000	600 000
ニーダーザクセン	3 078 855	254 966	3 333 821
ノルトライン-ヴェストファーレン	15 000 000	600 000	15 600 000
ラインラント-プファルツ	3 000 000	100 000	3 100 000
シュレースヴィック-ホルシュタイン	76 400	37 000	113 400
ザールラント	146 250	11 700	157 950
ザクセン	2 100 000	100 000	2 200 000
ザクセン-アンハルト	2 520 000	292 500	2 812 500
チューリンゲン	3 000 000	1 500 000	4 500 000
ドイツ全体	49 131 605	5 939 766	55 071 371

表-5 2018年度 2019年度 2020年度各州別被害木量 (m³)

州	被害木量	州	被害木量
連邦不動産管理省	1 202 083	ハンブルグ	23 000
ブランデンブルグ	5 671 000	メクレンブルグ-フォウアーポメルン	1 530 000
ベルリン	700	ニーダーザクセン	13 123 170
バーデン-ヴュルテンベルグ	15 800 000	ノルトラインヴェストファーレン	35 050 000
バイエルン	26 497 000	ラインラント-プファルツ	8 171 000
ブレーメン	—	シュレスヴィックホルシュタイン	392 850
ヘッセン	19 860 000	ザールラント	459 366

ザクセン	8 924 579		
ザクセンーアンハルト	12 580 876		
チューリンゲン	1 1167 700		
ドイツ全体	160 453 324		

2 クレックナー大臣：学校給食ネットワークセンターを設立

ー子供たちに健全な給食を提供ー (2020・2・18)

連邦食料・農業大臣ユリカ クレックナーは、保育園と学校におけるバランスのとれた学校給食を提供するために、ドイツ栄養協会（DGE）ー品質基準の普及を強化している。このための財政支援が倍化された。クレックナー大臣は、今日（2月18日）ニーダーザクセン州の保育園給食ネットワークセンターのために、216 000 ユーロ（約2 592 万円）の額の奨励決定を手渡した。

クレックナー大臣：バランスのとれた栄養は、健康な生活のための鍵である。我々の保育園は、ここで方向転換と大事な中心点を迎えている。子供たちは可能な限り早く、例えば新鮮な果実と野菜を良く知り、そして味わい学ぶことが重要である。私は保育園で高価値な給食提供を保障するために、DGE の品質ー基準の広範な適用のために尽力する。ネットワークセンターの確立（ニーダーザクセン州のように）に際して、支援すべきである。

従ってその際、子供達のための健全な栄養を可能とし、そしてそれが魅力的となる。我々は連邦省としてドイツ全域に財政支援する。私はネットワークセンターの全奨励額を年間 200 万ユーロ（約2 億4 000 万円）に倍化する。

保育園ー学校のさらなる情報ネットワークセンターを

このセンターは健全な給食提供の取組みに際して、保育園と学校を支援する。これは給食に関するテーマで広範な情報を提供し、そして継続教育の実施を構築する。そして保育園と学校への助言のために、有資格の専門家が仲介しそして政府機関、経済的な参画者、協力者、管理者並びに教師、両親の間のネットワークを組織する。

学校給食のネットワークセンターの活動は 2008 年以來、連邦食料・農業省から全 16 州において州との共同で、財政支出している。奨励の目的は各州におけるセンターの開設を先導し、その活動を支援することである。保育園ー学校における給食の DGE ー基準を普及するために。

この奨励は、IN FORM（訳注・ドイツのイニシアチブで健全な栄養とより多くの運動を）の分野において実施される。この間に保育園一学校のために、13のネットワークセンターが誕生した。このプロジェクトの奨励は、奨励期間2019/2020年に関してクレックナー大臣によって、先行した奨励期間に比較して200万ユーロに倍化された。2021年からの奨励継続のために、各州のプロジェクト内容を現在作成中である。基本的な焦点は、共同の給食における持続性の観点強化におかれている。

3 泥炭減少戦略は園芸におけるCO₂削減に貢献

(2020・2・18)

連邦農業省政務次官が、専門見本市で奨励者を決定した。政務次官ウヴェファイラー (Uwe Feiler) は、今日 (2月18日) 泥炭減少の日を開催した。

これには連邦農業省の招きで科学、経済そして団体の各分野から、140人の専門家が参加した。政務次官は強調した：“我々はドイツにおいて、将来的に不可欠なCO₂削減を達成できる。しかし、これには国内外での努力を必要とする。

その際、我々の泥炭削減戦略は、連邦政府の政策でもある。我々は経済と科学の共同で成し遂げる。経験交流し、そして園芸に関する共通の問題解決のきっかけを、発展させることが重要である。これは今日1つの成功を示している。

なぜならば、今日は気象保護のための良き日であるから。このイベントの分野において政務次官は、選ばれたデモンストレーション経営に対して、総額約71 500ユーロ (約858万円) の奨励決定書を手渡した。

連邦省は、広範囲に使用されている鑑賞用植物栽培の培地を、可能な限り地域的に問題解決のために、これに対応したモデルデモンストレーション計画を奨励している。連邦全域で参加した5つのモデル地域において、観賞用植物栽培経営が、地域の専門家とともに、植木鉢における泥炭部分の削減を4年間支援した。連邦農業省は、5つのモデル地域の代表者に奨励決定金を手渡した。

◎ 北部モデル地域：アプラーズ (Ablass) 造園業

奨励額 12 693 ユーロ (約152万円)

◎ 西部モデル地域：園芸経営シュテファン ゲーリッツェン (Stefan Gerritzen)

奨励額 13 250 ユーロ (約159万円)

- ◎ 東部モデル地域：有限会社・合資会社商会 ランガーヴィツツエバラ農園
奨励額 15 047 ユーロ（約 180 万円）
- ◎ 南一西部モデル地域：有限会社・合資会社商会 ザウター（Sauter）緑の
体験 奨励額 15 576 ユーロ（約 187 万円）
- ◎ 南モデル地域：アイヒエルマン（Eichelmann）園芸業
奨励額 15 161 ユーロ（約 182 万円）

この泥炭減少の会議は、堆肥、樹皮腐植土そして木質繊維のような、今定着している培地物質も、将来的に新しい培地構成物質の問題において、多様さをカバーすることができる。この間幾つかの培地製造者と園芸業者は、国一内外において泥炭生産または泥炭の多い培地について、積極的な経験をしている。

この経験を通じてヨーロッパ諸国とドイツが、この会議の間に園芸業者が新しい可能性を切り開くために、著名な研究者が報告し、問題解決のきっかけを開設している。

さらに問題解決の物質の使用性について、物理的、化学的そして生物的な特性が議論される。

背 景：

2050 気象保護プラン並びに連立政権協約は、ドイツにおける泥炭使用の削減を計画している。この間、連邦閣議の 2030 気象保護のための政策プログラムが、泥炭使用の削減と湿原の保護のための、さらなる目標到達と我々の努力の出発点を内包している。なぜならば、泥炭は数百年、数千年の間に多くの炭素と結びついた化石原料である。化石原料の泥炭は利用された後に分解し CO₂ が放出される。

連邦食料・農業省は、栽培培地における泥炭使用の削減のための具体的な戦略を策定した。この戦略策定に際して、園芸の価値創造チェーンに沿ったあらゆる関係者グループが参画を求められ、そして組み入れられた。この戦略のための科学的な基礎と決定に際しての助言を、資源研究所一チェーン研究所（TI）とユリウス・キューン研究所（GKI）に委任した。

2020・2・28 訳
青森中央学院大学
中川 一徹